

アフリカ 3 か国の保健省からの 研修生の受け入れについて

令和 6 年 7 月 30 日（火）から 8 月 7 日（水）まで、令和 6 年度 医療技術等国際展開推進事業「ケニア、ザンビア、タンザニアにおける WHO 必須歯科材料を用いた口腔疾患の予防・治療技術の能力強化事業」が行われました。新潟大学歯学部（WHO 口腔保健協力センター）は、共同研究機関である国立国際医療研究センターとともに 3 か国の保健省から各 2 名（歯科医官、薬剤官を 1 名ずつ）を新潟大学に招聘して研修プログラムを実施しました。



フィリピン・マニラセントラル大学の 表敬訪問について

新潟大学歯学部では、グローバル社会の実現に向けた国際ネットワークの構築を進める中で、教員の学術交流、大学院・学部学生の交換留学に努めています。

このたび令和 6 年 9 月 20 日（金）に、新潟大学歯学部とフィリピン・セントラルマニラ大学歯学部との部局間交流協定更新の調印式参加のために、Ma. Cristina Aurea G. Garcia 歯学部長に加えて、Renato C. Tanchoco, Jr 学長、Maria Lilybeth R. Tanchoco 医学部長が本学歯学部、医学部、本部を表敬訪問されました。両学部は、1997 年に部局間交流協定を締結しました。その後、短期留学制度を利用した学部学生、国費留学生（大学院生）、JST さくらサイエンスプログラ



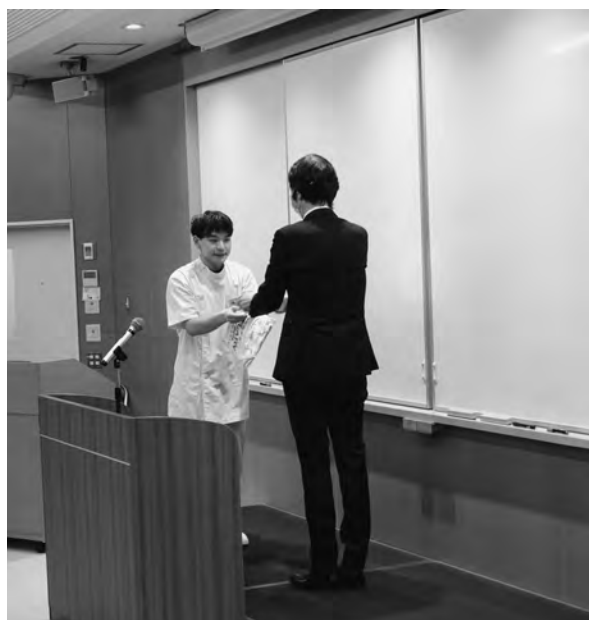
ムによる若手歯科医師の受け入れを始めとして、これまで多くの人材育成に貢献してきました。引き続きフィリピン等の東南アジア地域における超高齢社会の到達を見据えた歯科医療、口腔保健分

野での人材育成への貢献や共同研究の展開が期待されています。

令和6年度臨床実習生（歯学）認定証授与式 および臨床実習登院式の実施について

令和6年10月15日（火）に、臨床実習生（歯学）認定証授与式を行いました。本認定証は、今年度から公的化された臨床実習を開始する前の共用試験（CBT及びOSCE）に合格し、本学が定めた必修単位のすべてを取得することによって診療参加型臨床実習に進むために必要な知識及び技能を有していることが認められた歯学生に授与されます。今年度は歯学科5年次の学生38名が臨床実習生に認定されました。授与式では、井上誠歯学部長から訓示があり、「入学後に身に着けた知

識・技術をもとに、自信を持って臨床実習に望んでください」と学生たちに期待の言葉が送られました。その後、代表学生からは、「感謝の気持ちを忘れず、より多くのことを学び経験することで実りある臨床実習にすることを誓います」と決意が宣誓され、井上学部長から代表学生に臨床実習生（歯学）認定証及びネーム刺繍の入った診療衣が授与されました。また授与式に引き続いて臨床実習登院式が行われました。



教授人事について

令和6年3月末で退職された齋藤功先生（歯科矯正学分野）の後任として、令和6年11月1日（金）に同分野の丹原惇先生が昇任されました。

女性歯科医師を囲む座談会について

令和6年度ジェンダーダイバーシティ部局応援プロジェクトの採択を受けて、11月3日（日）に、新潟大学歯学部を卒業して現在も活躍されている4名の歯科医師（新潟大学医歯学総合病院 金丸博子先生、五泉市開業 石井多恵子先生、新潟県庁勤務 林悠子先生、大学院生 相澤知里先生）を

招いて、在学中の学生さんとの座談会を開催しました。先生方からは、自らの経験を踏まえて、卒後のキャリアアップや結婚・出産を経てどのようにワークライフバランスを保ちながら歯科医師、行政職として働いているかについて語っていただきました。



2024年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」について

今年度歯学部から申請していた標記プログラム「生涯の「食べる」を支える口腔医療コンダクター養成プログラム」（対象国南西アジア）が採択されました。

令和7年度学長裁量ポイント（スイングバイプログラム）について

歯学系への配分予定であった統合口腔感覚免疫学分野、摂食行動制御工学分野、オミックス組織再生学分野から、それぞれ田村光先生、筒井雄平先生、小野喜樹先生の採用が認められました。